

文芸欄



紅梅会(東灘区)
山笑う風が心耳捧げゆく
山笑う空と風とが遊泳す
風笑し蒲公英の旅立ちぬ
蒲公英や絮を飛ばして物思ふ
たんぼの彼の国にも咲き出づか
六甲の山裾に住み山笑う
山霞み花粉まかせの山笑う
庭に出るたのしみたんぼ日和かな

朋子
美恵子
佐智子
比佐美
扶喜子
里子
松子
恵

梅苑句会(東灘区)
若葉もえもの思う日や空青し
穩やかな日本の空に桜舞う
パパパパと叫ぶおさなに春よ来よ
桜爛漫支えし幹に苔むして

藤綱 孝子
山田シヅ子
時枝千穂子
深沢 清子
河野 光代
木原 愛子
渡辺 寛治
清水 昭子
仁居津 勲
伊藤 秀子
村上 彌彦
横田 昌子

俳句

宝愛句らぶ(中央区)
北野坂ミモザが似合う坂の町
新造船就航待つや春の海
四月尽のんびり低く飛行船
登下校想ひで多きやまつつじ
亡き友と酒酌み交わす花の下
作業着の汚れを競う新社員
須磨の寺青葉の笛に匂う黴
東雲や摩耶の嶺嶺風光る

和子
悦子
千枝子
道子
和志
哲男
啓臣

梅の美会(兵庫区)
老いてなお鮎子の列並び待つ
春色のトンネル潜り家路着く
支えられ卒寿の祝いあたたかし
雨来そう金の成る木を挿し木する
巢立ちゆく親鳥の愛ひなにそぞぐ

藤田ユイ子
山口 茂子
藤井 歌子
岡田富早恵
林 静野

見山台新樹会(北区)
鳥帰る一群を又一群を
うつつしいニクス撥ね除け芽ぶく木々
つかの間の別れ雪かも地区そうじ
指差えて撥のすべりし寒稽古
公園の土柔らかく春兆す
ゆるやかな流れ四月の鯉太し

貞永 弘子
藤田 和夫
松隈 弘子
佐溝満喜子
丸尾 嘉子
高石 勝行

ひまわり句会(北区)
初午祭風になぶられ疲れけり
軒下や競ふて咲くは蘭の花

塩見 光子
田中 弘子
筒井 豊子
中井 光子
矢谷登美子

ひよどり台句会(北区)
春来れど戦禍ウイルス先見え
安曇野や田に山写し初桜
風薫るゆれてかけ出すランドセル
桜餅携え墓に知らせ三つ
音もなく只ひたすらに散る桜

久松 礼子
松本 洋子
増田 嗣夫
岸下 庄二
秋山 弘之
脇坂有多子
黒田 久江
藤井久美子
北条 幸夫

青葉クラブ(北区)
熱き茶を勧める母の暑気払い
病葉を見つめて我も自己診断
藍々と丹生の山夏に入る

栗田 朝子
富江
馬場みつえ
山本 恒雄
前川 弘子

福寿草句会(須磨区)
暮敵や勝負そこそこ桜餅
草餅や日のぬくもりが母の味
新調の制服の衿風光る
風光る黄や紫のランドセル
咲きあふれ赤一色のつつじかな
多間台ときわ会文芸部(垂水区)
牡丹咲く寺を捜して道迷う
人離れ残りし牡丹の白きこと
言葉無くスマホの写真紅牡丹
紅牡丹色を守りしわらの傘
逢えぬ友早く見せたい庭牡丹
人も無き屋敷の庭に牡丹あり
桃山台クラブ文芸部(垂水区)
立ちつくす狸の置物春うらら
春の兆し微力におぼゆ今朝のジヨグ

石本 宏一
林 慎一
松下修二郎
上原 綾子
若田美代子
高見希豫子
大畑留理子
中村佳代子
樋山 隆夫
久下 順司
山本雄二郎
木村 敏博
田畑美恵子
大上 昭敏

イヌワシの高く飛翔し苗植える
腕高く和太鼓打てば風青し
草餅の焼けし香りを懐かしむ
母の忌の山沿い行くや藤の花
菖蒲湯に浸かりてそつと我が手見る
愛犬を思い出させる卯月雨
月が丘むつみ会(西区)
晴天や庭に色どる杜若
青嵐の人逝きて昭和遠くに
五月来る年を重ねて卒寿かな

田野 育利
森本 珠実
山本スミ子
大橋 治子
喜田 弘征
阪本 道子
川上 富範
武井 勇二

◆個人
京あるき竹林わたる初夏の風
畑より帰って来たかドアの音
湯煙や星もあなたもおぼるなり
清し殿楠公祭や五月かな
釋迦堂に説教白布御身拭
新鮮な初夏を並べる直売所
コロナ禍の春茶毗に付す姉涙雨
朝日差し雛の微笑む仏間かな
石垣の芳草つみたり通学児
漆黒のレコード拭きて長閑なり
目覚めゆくものを抱へて山笑ふ
笹かざり月を相手の手勺かな
ねねの像有馬の足湯春うらら

(東)天井 紀子
(東)武田 勝子
(東)都倉 知子
(灘)福井 悦子
(灘)安田奈美江 幸子
(北)録内千代子
(北)竹村 良子
(北)山田キミ子
(須)渡辺眞佐代
(須)高橋 純子
(垂)藤田 恵子
(垂)山田としゑ



へなより

今日居るよラインが入りチヨット寄る
お茶して喋り笑って又ね
(北)清水 久子

俳句

花水木おでかけ前のすまし顔
見えますか桜並木の清水川
崖上の枯木一本空を掃く
紅梅が一気に咲いて目白くする
わが庭に芍薬牡丹ダリヤ待ち

(西)小幡美沙子
(西)芝田 律子
(西)寺岡 洋子
(西)濱頭ミノル
(西)藤原 健二

川柳

桂木ひふみ会(北区)
デパートのコスメフロア別世界
削除した数多の悪を嗅ぎつける
加齢臭テレビのCM嘘じやない
ガーデニング花香の香りにつまれて
古代より香水淑女魔女にする
筑栄会(北区)
年を取り地縁を継ぐ川柳で
家と墓後世に継ぐ難しさ
この街の地域のきずな誇りたい
桜咲く親とつなぐ手うれしそう
淡路から眺むる橋は故郷恋し
人と人繋がりうまく笑みが出る
赤い糸切れそでつなぎ五十年

(東)東 健治
(東)早川キミエ
(東)増田 芳之
(北)北野 利一
(北)宮内美栄子
(垂)小高 肇
(西)萩原 浩一
(西)藤長 文子

短歌

高原ささゆり会(北区)
句歌集は名刺代わりに配られる買いたくなるは川柳本
枯れ木かと思し枝につぼみみて胸に伝わる春の鼓動か

かんいち
楠守喜久子

花山短歌会(北区)
暖かな日差しをあびて桜木の蕾みふくらむ開くを待つか
裏庭にフキのあまた育ちいてアリスのママさんどうぞぞと
ひよっこりと歯科医院にて旧友に会い互いの現在を夢中で交流

磯元カヨ子
船崎めり子
山田加壽代

◆個人
孫の結婚式ばあさん2人仲良く出席留めそで姿の娘に自分の半生思う
花まつり甘茶の香り懐かしむおさなき頃の作法の思い出
弟妹とツクシ摘みたるさとの土手は拓けて跡形も無く
視野に入る車窓流るる須磨の海霞む彼方は国生みの島
大輪の花散るように舞い下りた曇り日の空羽根白き鳩
とぼとぼと家路を急ぐ足元を今宵の月はやさしく照らす
わが庭の紫陽花切り取り父母の墓前に手向け線香供える
すぎな摘みわが手製なるハーブティ身体サラサラ廻る心地す
漸くに円周率の暗記が出来た八十八才二百拾桁

(兵)大賀 清子
(北)眞木香代子
(長)浜田芙美代
(須)江口 啓子
(西)松井寿美江
(西)秋山シズエ
(西)瀬尾省二郎
(西)松浦 妙子
(西)水澤 清

あとがき

コロナ禍ではありますが、上手にコロナとつきあい、工夫した事業も多くなっていると感じております。ソーシャルディスタンスで距離を保ちながらも心の距離は近くありたいものです。市老連の事業も本格始動。3年ぶりの事業開始や総会も実際に集まって実施しております。今後も会員の笑顔と元気な声に出会うことを楽しみにしております。今回も多くの原稿ありがとうございました。「KOBEシニアクラブ」が会員間の情報交換の場となればと願っております。今後ともどうかよろしくお願いたします。